取調べの可視化ニュース（通算第57号）

2023
第28号
2023.10.1

編集責任：取調べの可視化本部

今号の特集

- 取調べの可視化フォーラム2023のご報告
- 各地の市民集会報告（大阪、香川県）
- パンフレット「取調べの可視化で変えよう、刑事司法！」11訂版を発行しました

取調べの可視化フォーラム２０２３のご報告

取調べの可視化本部委員　亀山　倫世（山梨県弁護士会）

２０２３年９月６日、弁護士会館講堂クレオにおいて（オンライン配信併用）、『「泥棒に黙秘権があるか』『どつきまわすぞ』～今でも取調室で起きていること～」と題して取調べの可視化フォーラムが開催されました。

第１部では、まず可視化が義務付けられていない事件での不適切取調べ事案３件の報告がされました。

①赤木俊之会員（和歌山）から、和歌山での暴力行為等処罰に関する法律違反事件の被疑者取調べについて報告されました。本件では被疑者が精神障害を有していたため警察での取調べも録音・録画されており、取調官による「ほんま暴れるぞ」「どつき殺すぞ」「お前ばかか」等の言動が明らかとなりました。国賠訴訟では和解により慰謝料が支払われ、取調官は脅迫罪で罰金刑を受けています。

②いわゆる奈良西署実弾紛失事件について、松田真紀会員（大阪）から報告されました。拳銃の実弾５発を紛失したとされた件（後日、紛失自体がなかったと発表）で同署巡査長が窃盗容疑で取調べを受けました。取調官は、被疑者を犯人と決めつけ、ポリグラフ検査結果などを用い、「結果が出た。お前や」「やりましたでええわ」「やりましたで行こう」等の言動を繰り返しました。本フォーラムではご本人が録音した取調べ状況の音声も一部再生されました。国賠訴訟（一審）では慰謝料等の支払いが命じられています。

③三重県鳥羽警察署の事件について、ご本人が小坂井久会員（大阪）からインタビューを受ける形で報告されました。窃盗被疑事件（在宅、後に不起訴）での取調べをご本人が録音しており、その一部が再生されました。取調官は、関与を否定する被疑者を犯人と決めつけ、７時間以上もの間「泥棒に黙秘権はあるか」「泥棒が何を言うとんのや、人に迷惑かけて」等の発言を繰り返しました。なお、本件も国賠訴訟で慰謝料の支払いが認められています。

次に、永井康之会員（愛知県）から、取調べの可視化の現状について、対象事件や範囲が限定されている現行法の課題、現行法見直しのため「改正刑訴法に関する刑事手続の在り方協議会」が設置されていること等の報告がされました。

そして、特別ゲストの袴田ひで子さんからは弟・巌さん（袴田事件）の自白を強要された取調べの一部音声が紹介され、また、問題ある取調べは依然として続いており、身近な問題として真剣に考えてほしいとの発言がされました。

第２部では周防正行さん（映画監督）、村木厚子さん（元厚労省事務次官、被取調べ経験者）、河津博史会員（第二東京）、松田会員の４名をパネリスト、秋田真志会員（大阪）をコーディネーターとしてパネルディスカッションが行われました。

第１部での報告を受けて袴田事件の時代から現在まで不適切な取調べが続いている実情とその原因・問題点、現行の可視化制度導入の経緯に鑑みて「在り方協議会」において具体的事例に基づく検証がされていないことの問題、全件の可視化実現に向けた課題等の議論がなされました。

本フォーラムは会場１３３名、オンライン２３８名と多くの参加をいただきました。実際の取調べ音声が再生されるなど多くの方に取調べの実情をご理解いただく貴重な機会となったのではないでしょうか。本フォーラムの様子は日弁連サイト上でも動画配信される予定ですので、ぜひご視聴ください。

最後に、本フォーラムにパネリストとしてご登壇予定であった桜井昌司さんが本年８月逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

パネルディスカッションの様子

特別ゲストの袴田ひで子さん

各地の市民集会報告（大阪、香川県）

シンポジウム「ノーモアえん罪!! かしかとたちあいの未来」報告

大阪弁護士会取調べの可視化・弁護人立会本部事務局次長　片山　和成（大阪弁護士会）

一般市民に向けて広く議論を喚起するため、朝日放送の岩本計介アナウンサーをゲストに迎え、２０２３年７月８日、大阪弁護士会館（Ｚｏｏｍ併用）にて市民シンポジウムが開催されました。

まず、著名なえん罪事件である袴田事件が取り上げられました。間光洋弁護士（静岡県）から再審決定に至る長い道のりを紹介いただきました。次いで、岩本アナが袴田ひで子さんにインタビューを行い、再審決定に至るまでの苦労、厳さんの現状、今のお気持ちなど、多岐にわたってお話しいただきました。

続いて、えん罪事件被害者の方のインタビューを交えた動画が紹介されました。プレサンス事件の報告では、山岸忍さんから、身体拘束を受けていた当時の心境、何としても無罪を勝ち取ろうと弁護団と共に戦った経緯などを赤裸々にお話しいただきました。

２０１７年に三重県で発生したえん罪事件の動画も放映されました。被疑者とされた女性が、７時間にわたる取調べを録音していました。警察官が女性に対し、大声で人格攻撃をし続ける状況の生々しい音声を聞くことができました。

また、イギリスの現状について、石田倫識明治大学法学部教授から、韓国の現状について、ソウル弁護士会の柳光玉弁護士から、それぞれ報告いただきました。

休憩を挟み、パネリストに村木厚子さん、石田教授、小坂井久弁護士、川﨑拓也弁護士を迎え、岩本アナと森直也本部長代行の司会で、パネルディスカッションが行われました。

一般市民の方々に、多くのえん罪被害者の声を届けることができたシンポジウムでした。

全事件・全過程での「取調べ可視化」を考える映画上映会を開催しました！

取調べの可視化本部事務局次長　田中　拓（香川県弁護士会）

香川県弁護士会において、２０２３年８月19日、映画『Ｗｉｎｎｙ』の上映会を行いました。同作は、ファイル共有ソフト「Ｗｉｎｎｙ」を開発した金子勇さん（作中では東出昌大さん）が著作権法違反の幇助の罪に問われた刑事裁判を描いたものです。可視化されていない取調室において、問題のある取調べが行われ、そこで作成された申述書等が有罪立証に用いられる過程も描かれています。

上映後、主任弁護人を務めた秋田真志弁護士（大阪）（作中では吹越満さん）と、松本優作監督に参加いただき、トークセッションを実施しました。

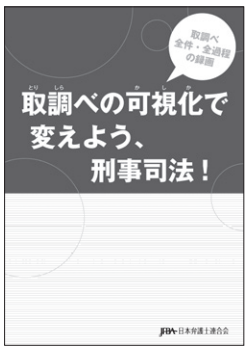
秋田弁護士からは、警察官の私物ＰＣがウィルス感染した結果、「Ｗｉｎｎｙ」のネットワーク上に流出した「被疑者取調べ要領」の記載（「否認被疑者は朝から晩まで調べ室に出して調べよ。（被疑者を弱らせる意味もある）」等）が紹介され、警察はその見立てにあった供述を取ることを真実の解明と考えており、そのために可視化が必要であることが強く訴えられました。

松本監督は、日本の警察はすごく優秀と刷り込まれ、無理やり自白を取るという話もどこか実感がなかったものの、『Ｗｉｎｎｙ』製作を通して今も起こっていることと分かって怖さを感じる、『Ｗｉｎｎｙ』製作が事件を風化させず、今の裁判制度や取調べの問題点を考えるきっかけになると考えた等と述べられました。

参加者からも活発な質問や意見表明がなされ、市民とともに可視化を考える充実したイベントになりました。

なお、日弁連でも、２０２４年１月22日に弁護士会館２階講堂「クレオ」において同様のイベントを予定していますので、今後各種媒体でお知らせします。

パンフレット「取調べの可視化で変えよう、刑事司法！」11訂版を発行しました



本パンフレットは、市民の方に取調べの全件可視化の必要性を周知し、理解を得るために２００３年に初版を作成し、以後改訂を重ねてきました。６月に最新版を発行しましたので、弁護士会のイベント等でぜひご活用ください。パンフレットのデータは、日弁連ウェブサイトでご覧いただけます。

https://www.nichibenren.or.jp/library/pdf/activity/criminal/recordings/detail/pam_kashika.pdf